

J-A庄内たがわ総代会 農直米は契約完了し概算金過払いしない

庄内たがわ農業協同組合(太田政士組合長)の第26回通常総代会が28日、荘銀タクト鶴岡(鶴岡市文化会館)で開かれました。

総代会は新型コロナウイルス対策で規模を縮小し、総代総数549人中、実出席71人、書面議決455人、合計526人で開催されました。

総代の質問があり、会場が昨年までの新余目支所2階ホール(旧梵天)ではなく、荘銀タクトになったことについて、太田組合長は「大きな会場で空調が整っている所を選択した」と述べました。

業務用の米滞る
米の販売進度について、組合長は「コロナの影響で特に業務用の米が滞っている。農直米の販売契約は完了しているが、出庫の進捗が遅れている。農直米の販売価格は

今年産米の情勢について、組合長は「6月末の民間在庫が220万トもあり、今年の概算金はかなり厳しくなると心配している。山形県はこれまで生産の目安を先行してきており、これ以上の深掘りは難しいと主張してきた。

過剰米対策は、主食用を飼料用に転換するなど、産地交付金の差額の拡充を国に要請している」と答えました。

今年産米の情勢について、組合長は「6月末の民間在庫が220万トもあり、今年の概算金はかなり厳しくなると心配している。山形県はこれまで生産の目安を先行してきており、これ以上の深掘りは難しいと主張してきた。

過剰米対策は、主食用を飼料用に転換するなど、産地交付金の差額の拡充を国に要請している」と答えました。

令和2年度に全中の経営コンサルタントを導入したことについて、組合長は「農家所得の拡大が基本目標だ。米の直接販売の拡大のため経費の設定、資

料削減による価格引き下げ、作目部会など任意組織が180余りもあり、その一本化や委託事務の効率化などで、園芸販売事業の黒字化を図る。

これら改革を集落座談会で示し、第9次中期経営計画に盛り込んだ」と答えました。

産直んめ農マルシェ(小真木原)について、小林薫常務理事は「昨年度も赤字を計上しているが、販売高は伸びており、長い目で見ていただきたい」と答えました。

春の田植え対応のガソリン値引き販売は、直播きは早いので開始が遅いとの指摘に対し、組合長は「あいとサービスと協議し、間に合うよう対応したい」と答えました。

櫛引育苗センターの新規申し込みが出来ないことに対して、女性総代から「遊休資産を活用し、農家が必要としているサービスに配慮する必要がある」との意見が出されました。



民報HP

月山とわたし 10 加藤貞雄(山王町)

■年賀状と月山(つづき)

口ウ原紙に月山と周辺の風景を鉄筆で縁どりする。次に原紙が破れないように注意深くつぶしていく。それから謄写印刷の仕事に入るのだが、これにはかなりの覚悟が必要だ。まず、床の上に置いてその前にあぐらをかく。原紙をスクリーン(網)に貼ってから印る作業に入る。上半身を前傾して体重をかけてローラーをころがす。刷ったハガキを、インクがずれないように慎重にスクリーンからはがして左側の新聞紙に順序よく並べる。その時、腰を左にひねる。数多くなると並べる場所が遠くなり、次第にひねり方が大きくなる。原紙を4枚か5枚貼り変えて300枚も刷り上げるのに、千数百回も腰を前傾と左傾に機械的に繰り返すことになる。これがいけない。その間、横になったり、体操をしたりして、休

み休みして、腰の保護に努めるのだが、それでもギクツとやられて近所の整形外科に足をひきずって行ったことがある。若いことはそれほどでもなかったが、近年は大げさに言えば苦行の思いだ。それにインクがなかなか乾かないので、ハガキのあちらこちらに汚れがついて相手に失礼することがある。

刷り上げた後は万年筆で挨拶文に続けてそのときどきの私の心境を添えてきた。

「天気晴朗るのが待ちどおしい。月山と向かい合いたい。」などと言うのもあって、年末ぎりぎりになってやっと投函するのが多い。

退職の前半(1992・平成4年)、勤めていた学校のイベント「私の宝もの」展に、それまで保全しておいた昭和47年(1972)7月円切手から、毎年の年賀ハガキ21枚を展示したところ、ずいぶん話題になった。

■自分の目で

40年も前、私が羽黒中学校で卒業生を担任していたときのことだ。月山のことです。その当時の生徒たちと忘れ難い体験をした。(つづく)



尾瀬の風に誘われて④

齋藤留治（藤島・新町）



天気は晴・背後は尾瀬沼

山小屋の朝は早く4時頃から出発の準備や朝食で賑やかになる。泊まった東電小屋のすぐ近くに現れた熊さんもそそくさと姿を消してしまつて、一目見ようと期待をした人々をがっかりさせてしまつたらしい。

尾瀬沼畔にある長蔵小屋の2代目平野長英さんは、「尾瀬の熊が人を襲つたという話は聞いたことがない。熊は温和な獣で自分も熊狩りをやったことがあるが、熊狩りなどやるもんじゃなれないと思ひましたネ。」と語っていたそうである。

熊さんよりも山歩きで怖いのは雷、登山者が好きこのんで早起きをする訳ではなく、午後になると雷の確率が高くなるので、目的地に早く着く為に出発するのである（山の雷はピカ・ドンとセットなので尾根筋等では特に危険）。そんな事から私達も次の目的地である尾瀬沼に向けて東電小屋に別れを告げた。

この日は天気も上々で、至仏山を眺めなが

ら燧ヶ岳山麓にある見晴（ここには小屋が数軒）に向けて木道をテクテク、見晴らしを過ぎ鬱蒼とした樹林帯を3時間弱行くと目の前が開けて、尾瀬沼畔の

沼尻にたどり着いた。

ここには沼尻休憩所があつて、ここでは東北一の高山、燧ヶ岳を見上げたり、山の中に清らかに佇む尾瀬沼の美しさに見とれたり、小屋で作つてもらつた握飯を食べたりして、ゆつたり過ごさせてもらつたような気がする。ここから対岸にある今夜の宿、長蔵小屋までまたテクテクと歩く事になるが、この頃になると足がだんだん駄々をこねてもくる（以前は長蔵小屋で渡し舟を運航していたが、沼の環境上から今は自分の足だけが頼り）。

（続く）

ひと

石坂公成

（1925～2018）

「免疫グロブリンE」の発見で、アレルギー解明に大きな貢献

青山崇



2018年、以下の功績で山形県名誉県民となつた。

抗体の一つであるレアギンは、国際的に多くの研究者の研究対象になつていた。しかし、その頃の日本では研究は困難であつた。それで渡米することになつた。

1966年、レアギンが新しい免疫グロブリンEであるという発見は、石坂夫妻の血の滲むような努力の結実

東京都の生まれで、元経団連会長・石坂泰三は叔父にあたり名門の家である。

何故山形なのか。1歳下で山形第一高女卒、現東京女子医科大学卒の才女・照子（旧姓松浦1926～2019）、東大大学院で共に学び、夫婦となり、二人三脚で研究一筋の道歩いた（写真下）。それは『結婚と研究は両立するある科学者夫妻のラブストーリー』を出版し自ら詳細に書いている。以前から仕事が終わ



きびちよ

中止の決断を

随分ゴタゴタしているじゃないですか。ゴタは中国の和尚さんの名前から出たものと記憶しているが、それはさておきダ。現状から五輪をどう予想するんだろうか・彼の2人は。どうしてもやる・と言う首相と、どうしてもやらせる・と言うIOCのNo.2みたいな人がオーストラリアから来ていたでしょう。

▲気になる一番は、既に3千人近く選手団が入国しているんだと。その中に感染者が6人いたんだってヨ。もう感染者がこの国に入っているんだぜ。その方々はどんな日常を送っているかは知らないが、外国からの感染者が入っているんだゾ。なるべく問題にしたいくないからか、新しいインド型が何人ナンて発表はされていないがサ、水

つたら山形で暮らそうという照子の強い願いにこたえて、1996年来形し、それから20数年暮らした。この間県教育委員会委員長なども務めた。



際対策はどうなっているんだい。14日の自粛期間は？もう練習をしていた選手団があつたじゃないですか。

▲首相の言う安心安全はどうなるの？大きな人流が始まる前から起きたんだぜ。併せて、東京の新たな感染者数は増加の方向だテ。尾身さんや国民の心配は当たってきたんかな。▲一方はワクチン接種だ。電話が繋がらない問題は終わったんだが、首相の掛け声が始まつた100万人接種。自衛隊を動かした大型接種は穴が開いたところも。大きな企業などの団体接種で中小企業からは不満が。自治体で年齢を下げて急がせたら乗が足りないとききた。▲急げ急げとケツ叩かれて、夜も寝ないで工面しお願いした係員は今度はお詫ひの電話だ。ストレスじゃない。このウツポン、何処に当たればいい？（石川）